

# ダニエル・カールの

# 聞きたい! 消防団

第11回

## 長野県川上村消防団

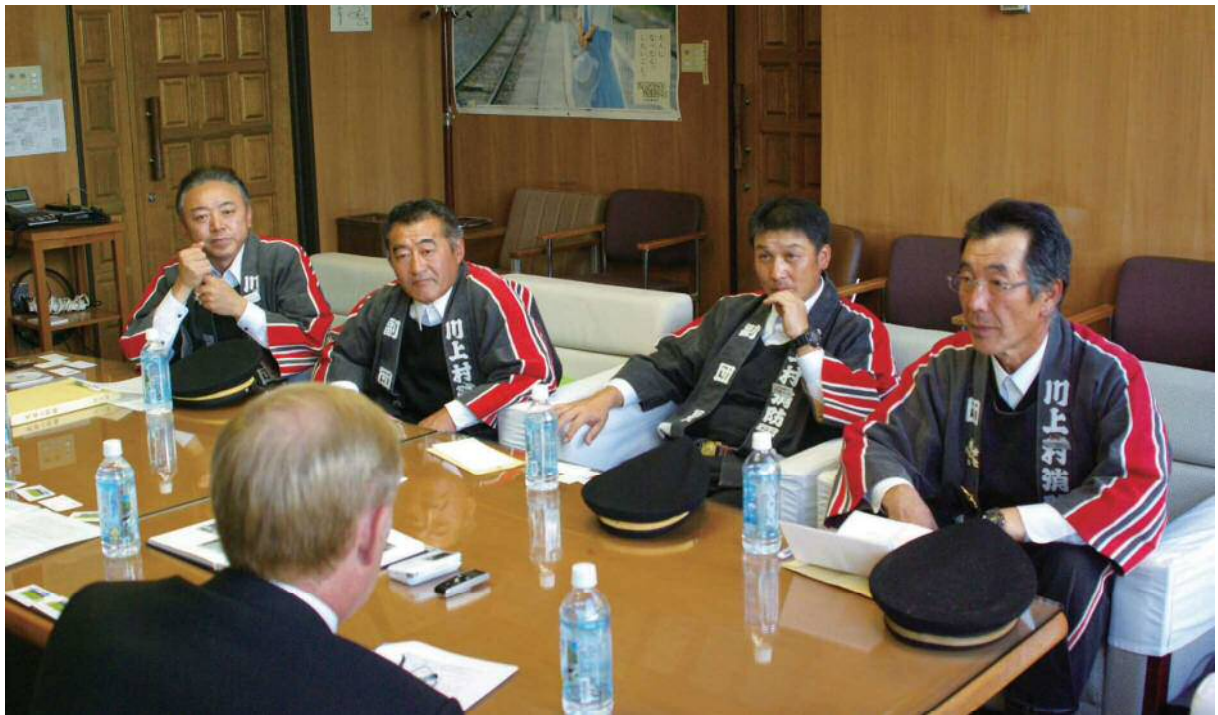
今回は、長野県の川上村をお訪ねしました。

川上村は、生産量日本一を誇るレタス王国として有名で、「平均年収 2,500 万円の農村」でもあるそうですね。

川上村の概要、消防団の概要、防災対策、消防団員の活躍などなど、いろいろなお話を伺い

たいと思います。

それでは、川上村消防団の林公夫団長、中島永則副団長、井出武志副団長、川上村役場の中嶋昌哉消防本部長の皆さんからお話を伺いましょう。



手前がダニエル・カール、左奥から、中嶋消防本部長、井出副団長、中島副団長、林団長  
(川上村役場で撮影)

## 川上村の概要等



**ダニエル** 本日はよろしくお願ひします。まず、川上村の概要について簡単に教えてください。

**中嶋本部長** 川上村は、長野県の東南端に位置し、群馬・埼玉・山梨に接しています。千曲川源流に位置し、全村が標高 1,100 メートル以上の高所にあります。ちなみに、役場の標高は 1,185 メートルで、日本一の高所役場といわれています。冷涼な気候を生かした多彩な高原野菜を栽培しており、特にレタスは日本一の生産量（平成 25 年のレタス出荷量は 72,856 トン）を誇っています。

**ダニエル** 平均年収 2,500 万円の農村ということでも有名ですね。

**中嶋本部長** そうですね。年ごとに気候の影響等によって変動がありますが、平成 25 年についていえば、農家戸数は約 560 戸ですが、野菜の総取扱高は 177 億 3,157 万円で、過去 5 年間で最高の実績でした。今年（平成 26 年）は、8 月に降った雹（ひょう）によって大きな被害を受けましたので、変動があると思いますが…。

**ダニエル** やはり（川上村には）農家が多いんですか。

**中嶋本部長** 人口は 4,060 人ですが、そのうち、約半数が農業従事者です。

**ダニエル** すると、団員も農家が多いんですか。

**中嶋本部長** ここにいる消防団幹部を含めて約 9 割が農家ですね。

## 消防団の概要等

**ダニエル** 消防団の概要を教えてください。

**中嶋本部長** 現在の条例定数は 280 名で、実員は 278 名です。集落ごとに設けられた 8 分団で構成されています。

**ダニエル** （条例定数に対する団員数の）充足率はほぼ 100 パーセントですね。人口に対する団員数も多い印象を受けます。消防団が地域に根づいているなあと感じます。

**林団長** 後継者が多いですしね。村には、消防団には入るものだという伝統があります。

**中嶋副団長** 入るのがあたりまえという感覚です。

**井出副団長** ある日、家に帰ったら、法被が届いていましたからね（笑）。



熱心に聞き入るダニエル

**ダニエル** 皆さんは何歳の頃に消防団に入団しましたか？

**林団長** 18歳です。

**中島副団長** 20歳です。

**井出副団長** 22歳ですね。

**ダニエル** 20歳前後で入団する人が多いんでしょうか。

**中嶋本部長** 学校を卒業して、農家の後継者として戻ってきてから入団するので、20歳過ぎが多いですね。ほかの地域では、60歳や70歳でも入っているところがあるそうですが、うちの場合は、遅くとも42歳くらいです。いったん辞めた後、正副団長の幹部になる人は、また選ばれて入団します。

**ダニエル** 平均年齢は？

**中嶋本部長** 30.8歳です。

**ダニエル** 若いですね。(平成25年の全国の消防団員の平均年齢は39.7歳(消防庁HP参照))

**中嶋本部長** ちなみに農家の後継者の平均年齢は29歳で、農家全体では52歳です。お米などを作っている普通の農家では、だいたい65歳くらいと聞くので、全体的に若いと思います。

**ダニエル** さすがレタス王国(笑)。全国では、なかなか後継者が見つからないと嘆いているところも多いのに、こちらは素晴らしいですね。

**林団長** なにも言わなくても、消防団には入るものとみんな思っていますからね。

**井出副団長** いったん村外に出た後、景気が悪くなって、村に戻ってくる人も多いです。

**ダニエル** 農業がうまくいっているたまま

のですね。山形(の農家の平均年齢)はたぶん60歳を超えているんじゃないですかね。うらやましい(笑)。

**中嶋本部長** (消防団には)勤め人よりも、自営業の農家が多いので、火事があっても対応が早いですね。勤め人だと、よそに出ていると、なかなか早く帰って来られませんから。

**中島副団長** うちの特色です。火災が発生したら、消防署(佐久広域連合消防本部の分遣所)から来る前に、地元の分団が出動して対応していることが多いですね。

**ダニエル** どんな訓練をしているんですか。地域ごとによく聞くのですが、操法訓練や消火訓練などになりますか。

**林団長** そうですね。非常呼集訓練などのような、日にちを限定せずにサイレンを鳴らして団員を集めて火を消す訓練などもやっています。防災訓練もしています。

**ダニエル** 年に何回くらい？

**中島副団長** 年に2回です。春に各分団で1回、秋に村全体で1回です。



出初め式の様子

## 今年の豪雪災害時の状況とその際の対応

**ダニエル** 今年（平成26年）初めの大雪は、こちらは大変だったと思いますが…。

**林団長** 今年の2月の豪雪には驚きました。こちらは寒いのですが、雪はあまり降らないんですよ。あれだけの大雪は初めての経験ですね。村の年寄りが言っていましたから。いつもは降っても20～30センチくらいですが、あのときは、1メートル20センチは降りましたからね。

**ダニエル** 山形では、地域によっては、毎年、そのくらい降りますよ（笑）。（山形では）早く片づけないとどんどん積もってきて大変なことになるので、大きな除雪車があったり、芝刈り機のような雪対策の機械を持っている家も多いですね。こちらには、除雪車はありますか。

**中島副団長** いわゆるロータリーで飛ばすのではないです。農家が多く、それぞれがトラクターをもっているのです、それで（除雪）対応しています。毎年、少しは降るので、ある程度の除雪機能があるんですよ。

**林団長** 畑を整地するときに使うハイド板というものがあるので、それを（トラクターの）後ろにつけて、雪を掃いたりしました。

**中島副団長** あのと、比較的、道路は早く復活しました。業者に頼むのではなく、それぞれが個々のトラクターを使って。みんなが自然な流れで（除雪を）やりました。春には、例年どおりに（雪が）片づきましたね。

**ダニエル** 要救助者への対応はどうされましたか。

**林団長** 消防団員が、独り暮らしの高齢者の家に行き、安否確認や雪かきなどをやりました。

**ダニエル** 農作物への被害はどうでしたか？

**林団長** レタスの苗を作っているハウスが相当やられましたね。

**中嶋本部長** 3億程度の被害が出ました。

**ダニエル** 今年の出荷には間に合いましたか？

**中島副団長** なんとか（間に合いました）。

**ダニエル** それは、良かったです。今年だけの大雪であったことを望みたいですね。もし雪対策などが必要でしたら、御相談ください。山形には、詳しい友達がたくさんいるので、御紹介しますよ（笑）。



白熱する取材の風景

## 過去の印象的な災害等とその際の対応

**ダニエル** こちらで、現在、いちばん心配している災害はなんですか。

**林団長** やはり台風や集中豪雨による川の増水ですね。

**ダニエル** 最近は、全国各地で集中豪雨が起きていますよね。氾濫の恐れがあるんですか。

**林団長** 昭和 57、58 年の台風では、増水によって堤防が決壊し、ひどい災害が起きました。消防団が出動し、木流しなどの水防活動で活躍しました。

**中嶋本部長** これがその当時の様子です。(下写真を参照)

**ダニエル** これはすごいですね。元々は、そんなに大きな川幅ではなかったのでしょうか、こんなに氾濫したのですか。

**中嶋本部長** この災害が起きるまでは、ほとんどコンクリート製の堤防はなかったものでして。

**ダニエル** 水の力ってすごいですね。

**中嶋本部長** 川幅がないので、瞬間的に降られると、処理ができなくなるところもあります。

**ダニエル** この後、護岸工事をしましたか？

**中嶋本部長** 激甚災害の指定を受けたので、集中的に護岸工事を行いました。それ以降は、



当時の川上村の梓山地区の様子

幸い、大きな川の氾濫はありません。

**ダニエル** これは約 30 年前の災害ですよね。こちらでも集中豪雨が起きていますか。

**中嶋副団長** こちらは降ってないけど、隣の集落では雨がすごいということが増えましたね。

**ダニエル** どのような対策を考えていますか？どこで起きるか予測が難しいので、なかなか対応は難しいとは思いますが…。

**中嶋副団長** 野菜の産地ですので、マルチというビニールを畑の上にかけていますが、降った雨がその上を流れていきますので、場所によっては、多量の水が一気に集中して流れ込んでくるので、すごく氾濫します。その辺の危ないと思われる箇所を拡張工事したり、実際に氾濫の恐れがあるときは消防団が出動して土のうを積んだりしています。



当時の川上村の居倉・後海道地区の様子



当時の川上村の原・埴下地区の様子

## 消防団員の活躍について

**ダニエル** 川上村消防団のPRをお願いします。

**林団長** 今年は南佐久郡の大会で、ラッパ吹奏とポンプ操法で優勝して県大会に行きました。

**中嶋本部長** ポンプ操法では何度か県大会に行ったことがありますが、ラッパは初めてです。長野県のほかの市町村では、ラッパ隊という専門の隊を設けているところが多いのですが、うちの場合は、いろんな分団から集まった人たち、簡単にいうと寄せ集めで練習を重ねて、郡大会で優勝しました。

**林団長** 村消防団始まって以来の快挙です。

**中嶋副団長** みんな、がんばってくれました。

**ダニエル** (ラッパ隊は)何人くらいですか？

**中嶋本部長** 21人です。うちは高原野菜を扱っており、6月になると出荷が始まりますので、村の操法大会やラッパ吹奏大会は、4月末に開催(本年は28日)します。これは全国的に見ると、かなり早い開催だと思います。全国大会が秋に開催されるので、県大会は6月から7月の開催が全国では多いそうですが、長野県では、今年は

7月下旬でした。この辺の農家は、この時期がいちばん出荷で忙しいんですよ。

**林団長** 書き入れ時ですね。

**中嶋本部長** 昔は、ポンプ操法大会の予選などでホースなどを落とすと、逆に褒められることもあったくらいです(笑)。忙しい時期の大会に出なくて済むので。だけど今の子たちは、そうじゃなくて、(県大会に)出たいと言います。

**井出副団長** どうしても勝ちたいと。

**中嶋本部長** ここ10年くらいで、若い団員たちの考え方が変わりましたね。

**中嶋副団長** 向き合う姿勢が変わりました。

**林団長** 出たいという意欲がすごいですね。その努力のかいがあって、今回の県大会では、2人がポンプ操法で個人賞をもらいました。

**ダニエル** みなさん、相当練習したんですね。何年も(操法の)練習を続けていたんですか。

**中嶋本部長** 毎年同じ人が同じ練習をすればどんどん上達すると思いますが、うちの場合、誰もが水を出せないといけないと考えていますので、基本的には、毎年、選手が変わっています。



操法訓練の様子

**ダニエル** 最後に一言お願いします。

**林団長** 最近は地球の温暖化で、どこで災害が起きてもおかしくない。災害が起きない日々を毎日送ることができるよう、望むばかりです。

**中島副団長** この村は、仕事もみんな同じ農業で、消防団員もやって、つきあいがほぼずっとあります。みんなが一つの目的に向かってがんばっています。非常に活気があります。力強い。それがいいところで、安心できる場所ですね。

**ダニエル** なんとというか大都会の冷たさがない感じを受けますね。

**林団長** そういうものは、全くないですね。

## 対談を終えて

東京はマンション住まいの人が多く、同じ建物に住んでいても、名前も顔も知らない、挨拶すら交わしたことがないという話をよく聞きます。この川上村では、そんなことはまずなさそうですね。同じ農業、同じ消防団（OBを含む。）のメンバーばかりで、みんなが一つの目的に向けてがんばっていらっしゃる。村の一心同体という気持ちを作る意味でも、消防団は大きな役割を果たしていると感じました。やる気満々の若い人が多いそうですし、今後も楽しみです。

川上村消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。（ダニエル・カール）



川上村のレタス畑

（編注）次ページ以降に「ダニエル・カールの教えて！村長さん～長野県川上村訪問編～」を掲載しています。